

都市再生整備計画 事後評価シート
吉野地区

令和5年1月

鹿児島県鹿児島市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県		市町村名	鹿児島市		地区名	吉野地区			面積	117.3ha	
交付期間	平成30年度～令和4年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	1296.2	国費率	0.425			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	公園(5号公園、近隣公園)、土地区画整理事業(吉野地区)								
			提案事業	なし								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	なし	-			-				
			提案事業	なし	-			-				
	新たに追加した事業		基幹事業	高質空間形成施設(緑道整備)	都市構造再編集中支援事業の創設に伴い、社会資本整備総合計画で実施を予定していた緑道整備事業を、高質空間形成施設(緑道整備)として行うこととなったため。			なし				
提案事業			地域創造支援事業(住居表示実施事業(吉野地区))	都市構造再編集中支援事業の創設に伴い、社会資本整備総合計画で実施を予定していた住居表示実施事業を、地域創造支援事業として行うこととなったため。			なし					
交付期間の変更		当初	平成30年度～令和4年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	地区内公園利用者数	人/日	210	H29	250	R4	277	○	あり	土地区画整理事業の推進に伴い良好な居住環境が形成されたことで区域内(周辺地区を含む)の居住人口が増えたことから、公園利用者が増加した。	-
	指標2	居住人口	人	42,051	H29	42,000	R4	43,688	○	あり	住民が安心・安全に暮らせる良好な生活環境が形成されたことや、商業施設等の立地が進み市民生活の利便性が向上したことで、居住人口の増加につながった。	令和5年5月
	指標3	交通環境の不満度	%	52	H29	45	R4	40	○	あり	狭隘道路の解消や歩道整備により歩行者や車両通行の安全性を確保したことで、交通環境に関する不満度の低減につながった。	-
	指標4									あり		
	指標5									あり		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	住民の定住意向	%	98	H29			99			自然災害からの安全性や交通における利便性など吉野地域がもつ立地に加え、土地区画整理事業の推進により良好な生活環境が形成されたことで、居住人口が増加していることから、まちに住み続けたいと思う定住意向を維持することができた。	-
	その他の数値指標2											
	その他の数値指標3											
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 道路や、公園、緑道など公共施設が整備されたことで、良好な居住環境の形成と宅地の利用増進が図られるとともに、防災性が向上した。 狭隘道路が解消され、消防車や救急車等の緊急車両の通行が可能となり、到着時間の短縮も図られ、地域住民の安心・安全の確保に貢献した。 商業施設や医療施設等の立地が進み市民生活の利便性が向上した。 周辺地域を含む人口が増え、まちの活性化が図られた。 											
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング	実施なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	官民連携による取組	実施なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	持続的なまちづくり体制の構築	実施なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					

様式2-2 地区の概要

吉野地区(鹿児島県鹿児島市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 市民生活を支える機能性の高いまちづくり 目標1 交通環境の改善による安全で快適なまちづくり 目標2 憩いやコミュニティの場の形成による多世代の地域住民が共存して暮らすことのできる快適なまちづくり	地区内公園利用者数	単位:人/日	210	H29	250	R4	277	R4
	居住人口	単位:人	42,051	H29	42,000	R4	43,688	R4
	交通環境の不満度	単位:%	52	H29	45	R4	40	R4



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 公園整備により、地域住民の憩いやコミュニティの場となる公共空間と災害時の一時避難場所が確保された。 周辺地域を含む人口増加に伴い、まちの活性化が図られているが、町内会加入率やゴミステーションなど地域コミュニティの不足が課題となっている。 狭隘道路の解消や歩道整備により、交通環境が改善されるなど安全性が向上し快適な生活環境が形成されたが、一方で、住宅地周辺の交通量が増加してきており、アンケートでも道路標識やロードミラーなどの設置要望があることから、歩行者や車両通行の安全性の確保に向け、交通安全施設整備が課題となっている。 土地区画整理事業の推進により、区域内の交通環境に対する満足度は以前より高まっているが、区域外の幹線道路等においては慢性的な交通渋滞が発生しており、吉野第二地区土地区画整理事業区域内の交通環境の早期改善を望む声が増えた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 良好な居住環境を維持するため、市民と協働した公共施設の維持管理に努める。 町内会加入者の増加など地域コミュニティの充実に向け、ソフト面での対策を図る。 土地区画整理事業の進捗に伴い、住宅地周辺の交通量が増加してきていることから、歩行者や車両が安全かつ快適に移動できるよう交通安全施設の整備を図る。 土地区画整理事業の進捗に伴う交通量増加により、区域外の幹線道路等においては慢性的な交通渋滞が発生しているため、吉野第二地区土地区画整理事業の推進に努め、公共施設の整備改善を図る。